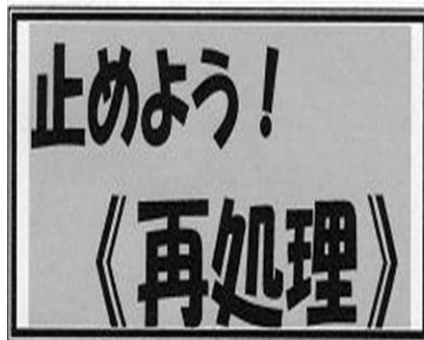


## 三陸の海を放射能から守る 岩手の会

郵便振替 02240-5-102650  
ホームページ《再処理／岩手の環境》  
http://homepage3.nifty.com/gatayann/env.htm  
《まった再処理分庫》  
http://briefcase.vahoo.co.jp/kimag



## 《天恵の海》

2012(平成 24)年  
8月 20日  
第 117号  
編集事務局 S.Oshida  
TEL・FAX 019-623-1636

# 六ヶ所再処理工場

# 『B溶融炉』で ガラス固化体54製造と発表

# 「事前確認試験」報告書(概要)は何を意味するのか?

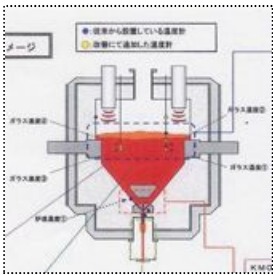
# 二〇〇七年「A溶融炉」初動試験に相当

日本原燃(株)の川井吉彦社長は七月二十七日の定例記者懇談会で「再処理工場の高レベル廃液のガラス固化についてB溶融炉における『事前確認試験』が順調に終了した」と発表し、また、日本原燃ホームページには『ガラス溶融炉B系列事前確認試験の結果について(概要)』が掲載されました。

この報告書には、引き続き「A系列事前確認試験」「B系列ガラス固化試験」「A系列ガラス固化試験」が実施されるとされており、保安院への正式報告書は今後書かれるものと思われまます。従ってこの「概要報告」だけで、課題がクリアされたなどということとは出来ません。二〇〇七年のA溶融炉の試験では当初は順調でしたがその後、炉底に白金族元素が付着し、さらに耐火レンガのひび割れなどが起こり技術的欠陥を克服出来ないまま現在に至っています。

### 炉内温度計増設と 洗浄運転の繰り返し

川井社長は、「六月十八日から開始した試験で模擬廃液を使って十七本、実廃液を使って三本七本のガラス固化体を製造出来た。これは二年間にわたる東海再処理工場での模擬廃液を用



温度計増設の  
ガラス溶融炉

いたモックアップ(模擬)試験の成果である」と語りました。そして「今回の試験にあたって炉内温度管理のために、炉内のガラス温度の測定点を増やし、温度変化予測プログラムも改良した。運転にあたっては定期的に洗浄運転を繰り返すことにより白金族元素の炉底部への堆積を抑えることが出来た」と改善点を強調しました。

### 五年前の「A溶融炉」の初動試験の繰り返し

### 「B炉」事前確認試験 ガラス固化体製造数

2012年	模擬液での試験	17本製造
6.18-7.3	不溶解残渣含まない実液試験	23本(内 廃液供給 15本)製造
7.4-18	不溶解残渣含む実液での試験	14本(内 廃液供給 10本)製造
7.19-27	模擬液も含め	54本
製造数計	内 実廃液	25本

今回の「事前確認試験」は、二〇〇七年十一月四日から翌年一月十八日までの一ヶ月半にわたって行われた「A溶融炉」でのガラス固化試験に比定されるものと思われまます。(「天恵の海」第五〇号参照)

このA溶融炉の初動試験は①溶融炉の性能試験②処理能力試験と位置づけられ六〇本のガラス固化体を製造しました。この六〇本製造の前半は不溶解残渣の入らない廃液によりなされ、後半には不溶解残渣を入れた試験を行いました。その結果「白金族

元素」による電気抵抗の変調が現れ炉内温度を安定的に管理できず、流下性が悪化、炉底に白金族元素が蓄積し炉は動かなくなってしまう。その後の、炉内攪拌作業や耐火レンガ剥落などの経過は衆目の知るところです。

今回の「B炉事前確認試験」は、初動における「安定的運転」をあらためて確認したに過ぎないと思われまます。

「高レベル廃液」は作ってはならない超危険物は、安全管理が原理的に難しい「高レベル放射性廃液」を生み出すことに象徴されます。廃液は人がそばに近づいただけで即死する『死の灰』のかたまりで、絶えず冷却し水素を取り除かねばなりません。この危険物を六ヶ所工場では、ガラス固化する技術もないまま、使用済み核燃料を切り刻んで溶解し作ってしまったのです。

実はこの問題の根本には茨城県東海再処理工場でのガラス固化試験が国の審議会の正式な評価がなされないま

ま、東海再処理工場の事業主体(当時核燃サイクル機構)の中間報告書を基に「完成された技術」と評価し建設された経緯にあります。

「再処理から撤退」ならば、見えぬ安全策

原発と再処理の扱う核エネルギーの想像を超える膨大さは近代科学の実験による証明の範疇を超えます。甚大な被害をもたらす「実験」は出来ないからです。

今回の試験で注目すべきは、高レベル放射性廃液を薄くガラスに混ぜれば、なんとかガラス固化体出来るのではないかとという可能性の暗示です。これは高レベル廃液減少のためであり、再処理からの撤退を前提にしての話です。

今必要なのは、超危険な高レベル廃液を、一刻も早く減少させるために、様々の技術が検討されるべきという事です。政府は再処理の危険性と技術的不可能性の現実を認め、早急に撤退を宣言すべきです。高レベル放射性廃液「ゼロ」が、安心安全の日本の第一歩です。(尚)

# 原発やめて！ 盛岡・市民デモ

脱原発・再稼働反対を訴える市民らの金曜デモが続けられています。県庁前小公園から東北電力支店までの歩道を歩くデモに参加したのは、七月二十七日には一〇五人八月十日には一八八人でした。



7月27日



8月10日

## 原子力規制委員会人事 見直しを！

「岩手の会」は、国会

に上程されようとしている原子力規制委員会人事について、岩手選出国会議員などに以下のような要望を送りました。

### 【要望事項】

以下3名の委員は、国民のため中立の立場で仕事をしなければならぬ原子力規制委員としては不適格であり、人事の差し替えを求めます。

- 田中俊一氏…日本原子力研究所(現日本原子力研究開発機構)に入り東海研究所長や副理事長を歴任。
- 中村佳代子氏…日本アイ

## 原発事故刑事告発 地検が受理

八月一日、東京地検は

原発事故の刑事責任を問う告発四件を受理し捜査を開始しました。福島地検も東京電力旧経営陣に対する業務上過失致死

罪容疑や公害罪容疑の告発を受け受理し、金沢地検も同様の告発を受理しました。岩手からの「公害罪告発」は受理されず

返送されてきましたがその判断の責任は厳しく問われねばなりません。

# 原発なくても電気は余る！ 稼働ゼロ57日で中断中

## 7.29 日比谷公園集会 国会大包围デモ



撮影：野田雅也 (JVJA)

灯火を掲げ20万人

「正しい報道への会」提供 <http://fotgazet.com/news/000226.html>

大飯原発 3号機 7月 1日再稼働  
4号機 7月18日再稼働

地震列島に原発は危険！

### ◇8月3日 「関電・でんき予報」 「過去の使用電力実績データ」から

<http://www.kepco.co.jp/set suden/graph/index.html>

供給力 2999万キロワット  
 原発 236万kw 火力 1433万kw 水力 253万kw  
 揚水 357万kw 地熱太陽 1万kw 他社受電 719万kw  
 最大使用量 2681万キロワット  
 午後2時 (大阪最高気温 36.7℃)  
 差し引き余力 318万キロワット  
 うち原発2機で 236万キロワット

原発なくても 82万キロワットの余力

### ◇実際には もっと余力があります

- 原発再稼働と同時に火力発電8基・384万kwが停止しました。
- 7月27日水力は267万kw 揚水は407万kw
- 「他社受電」は 民間の自家発電整備がめざましくますます充実してきています。